

*** 三重県水産試験場日食8枚(東京天文台100周年記念誌資料2-1-1-4)**

東京天文台100周年記念誌資料の整理をしており、次々と資料について記事を書いている。今回は東京天文台100周年記念誌資料—その2—のダンボール箱の菓子箱に入った多数の写真の一部で、アーカイブ新聞第349号のリストでは、

1) 紙箱入り写真

1. 天文台記録写真(雑)：岡山関係：25枚、野辺山太陽電波関係(起工式1968年5月6日の日付あり)：10枚、1968年5月6日とある万歳をしている写真、三重県水産試験場日食時の港の写真：8枚

と書かれたものの、最後の項目「三重県水産試験場日食時の港の写真：8枚」である。日食と書かれているが、これらの写真には日食の影はない。日食観測に水産試験場の船ということでは思い当たることがある。アーカイブ室新聞第21号(2008年6月12日)に「1958年スワロフ日食時のスワロフ島海図発見」という記事がある。この記事にあるが、この日食観測に使われた船は、北海道大学水産学部の練習船「おしよろ丸」であった。

北海道大学水産学部の練習船おしよろ丸について「1927(昭和2)年5月、三重県鳥羽町株式会社神戸製鋼所鳥羽工場で補助機関(ズルザー型500馬力)付バーチンケン型帆として建造された。その後1942年帆装を撤去して汽船に改装、更に1952年には船体延長および主機関の換装工事を施行し、総軸数616.72tonとなった。戦前、北洋航海中ソ連監視船に不法臨検を受けた(1937年)こともあり、また大戦中は米国艦載機による攻撃を受けたが九死に一生を得てその難を免れた。戦後北太平洋横断、或はインド洋に遠出、1958年南太平洋の日食観測に参加するなど数奇な運命を持って1962(昭和37)年8月その任を閉じた。おしよろ丸II世は、54次の練習航海を修め総航程30万海里を涛波し延乗船学生は、1,648名を数えた。」と記されている。



写真1



写真2

日食観測に使われた「おしよろ丸」が三重県で建造されたことと、これらの写真がどのように結びつくかはよくわからないが、日食、水産試験場、三重県をキーワードにして思い浮かぶのは、このようなことである。写真 1～8、すべてが三重県水産試験場を訪ねた時に撮影されたものである。



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



写真 7



写真 8

これらの写真が、このアーカイブ新聞の記事にふさわしいか疑問の向きもあろうが、東京天文台 100 周年記念誌資料の中にあつたのである。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp